

笠間長石ブランディング研究会

常世田 茂* 郡司 恋緒菜* 新島 佐知子* 吉田 博和**

1. はじめに

笠間焼で使用される釉薬の主原料である長石原料は、県外産や海外産に依存しているが、近年、枯渇化やエネルギーコストなどにより価格が上昇している。

そこで、笠間焼協同組合との共同研究¹⁾ (R3～4年)により県産花崗岩より開発された低コストな「笠間長石」の利用普及を進めるとともに、R5年には笠間焼および笠間長石のブランド力向上を目指す「笠間長石ブランディング研究会」を立ち上げて、活動を行ってきた。

今年度は、地元特産品である栗栽培から出る剪定枝を焼却した「栗灰」の釉薬利用について、笠間焼協同組合との共同研究 (R5～6年) で得た技術も併せて、普及活動を行った。

2. 目的

本研究会では、2つのテーマでの活動を行った。

- ① R6年度に東京日本橋三越本店・アートギャラリーで行った展示会「KASAMA MADE カタチの多様性と笠間長石の可能性」の茨城県内への凱旋展となるグループ展 (工芸の丘) を開催し、笠間長石の産地内での普及を狙う。
- ② 栗灰を使った釉薬の製品化を行い、長石と併せて笠間焼の新原料として利活用の普及をはかる。

3. 研究内容

3.1 笠間市での展示会の開催

産地で採れる二つの素材「笠間長石」と「栗灰」を釉薬の主原料として用いた製品の展示販売会 (R8年2月11～23日) を笠間工芸の丘で開催した。(図1、2)

展示会テーマを「KASAMAの色 ～笠間長石と栗灰による新たな試み～」とし、地域素材の魅力を生かした展示会にするための協議を行った。(表1)

表1 研究会開催と内容

開催日	内 容
第1回 (5/27)	・笠間長石・栗灰に関する取組み紹介 ・2月の展示会についての説明
第2回 (9/11)	・展示会テーマおよび笠間素材を使う魅力について協議 ・名称、レイアウト、広報デザイン
第3回 (10/17)	・商品撮影勉強会 (訴求力ある魅力的な撮影技術の習得)
展示会 (2/11～23)	・18窯元・陶芸家の作品展示販売 ・笠間長石・栗灰の解説展示
第4回 (3/12)	・展示会の結果報告と意見交換会 ・今後に向けたディスカッション



図1 展示会(笠間長石と栗灰の説明)



図2 展示会(研究会会員の展示風景)

3.2 笠間焼および笠間長石の情報発信

笠間長石・栗灰および展示会の周知を行うために、情報発信を行った。主にプレスリリースを行う方法と、地元で開催されるイベントなどでのブース出展を行い、下記取材等を受けた。(表2)

表2 情報発信

媒体・方法	内 容
石の百年館 (R7年 3月4日～5 月25日)	「笠間長石×栗灰釉展」 笠間市の地場産材である稲田石を用いた釉薬「笠間長石」と、笠間の栗の剪定枝灰を原料とした釉薬「栗灰釉」の融合による笠間焼を展示
月刊みと (4/1号)	企画展「笠間長石×栗灰釉」 石の百年間での展示を紹介
茨城新聞 (4/19紙面)	「窯元200超、勢ぞろい」(陶炎祭) 笠間長石と栗灰の展示成果を紹介
朝日新聞 (4/25紙面)	「陶器×栗 笠間の魅力存分に」 笠間長石と栗灰の展示成果を紹介
読売新聞 (4/26紙面)	「笠間の陶炎祭29日から」 笠間長石と栗灰の展示成果を紹介

*陶芸人材グループ **窯業技術グループ

茨城新聞 (9/22)	「笠間の新栗 味わおう」 「かさま新栗まつり」での展示紹介 (図3)
NHK 水戸放送局 (10/29)	「いば6 アートのしおり」 大学校での展示成果の紹介

同時に SNS での情報発信も行い、地元窯元の来場もあり、笠間産原料への関心を持っていただくきっかけとなった。(図4)



図3 かさま新栗まつり

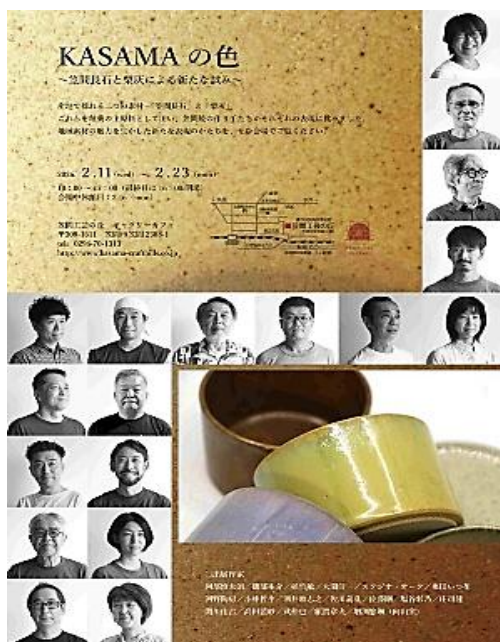


図4 笠間工芸の丘展

3.3 製品開発支援を通した笠間長石・栗灰の評価

展示会後の会合(表1:第4回)では、実際に製品化した笠間長石、栗灰の評価や、研究会活動の取り組みに関する研究会会員の意見を集約した。

【笠間長石への評価】

- ・原料の安さが魅力。
- ・他の精製された長石と比べ、雑味(粗い成分、鉄分など)が逆に魅力(特徴)として使える。
- ・他の長石と比べ沈殿しにくく、沈殿後も固化せず攪拌が容易にできる。
- ・他の長石と比べ釉薬の光沢が抑えられてしっとりとした表情になる。
- ・大きな粒子や鉄分があるため、摺込みや分級など使い方によって表情が変わる可能性がある。
- ・高温焼成や酸化金属(チタンなど)によってはピンホールやブクが発生する。

【栗灰への評価】

- ・天然灰特有の扱いにくさがある反面、やわらかい表情が得られた。
- ・ロット毎に違いが出る天然灰特有の問題がある。灰化状態(黒色～灰色～白色)によって釉調が変わるので、安定供給に課題がある。
- ・展示会で使う分の灰は自分で水簸(精製)した。水簸作業はとても手間なので、水簸済みで市販化されることを希望する。

【研究会への評価】

- ・地元窯元からも取り組みを評価する声を頂いた。
- ・地元原料を使用することはサステナブルであるという観点からも良い取り組みだと思う。
- ・お客様への説明でも地元原料を使うことはファン獲得にプラスになると思う。
- ・研究会がきっかけで、地元原料を使うようになった。今後、もっと使っていきたい。

4. 結果と考察

研究会会員に実際に製品化してもらうことで、様々な意見を集約できた。今後、さらに技術支援に反映させたい。

展示会では多くの地元窯元にも見ていただき、関心を持っていただくことができた。さらに普及が進むことが期待される。

5. 今後の展開

研究会の活動は今年度をもって終了となるが、集約した意見を基に、引き続き、笠間産原料を使った製品開発支援を進める。

6. 謝辞

外部講師を務めていただいた、宇津井写真事務所の宇津井志穂氏に感謝の辞を述べたい。

7. 参考文献

- 1) 吉田博和 他、稲田石の釉薬利用に関する基礎研究、茨城県産業技術イノベーションセンター令和3年度研究報告、50、35-36、2022